



明日を信じて

新潟市立潟東小学校 平成30年6月20日発行 第3号
「明日（あす）を信じて」は校歌のサブタイトルです

形を整え，心を込める

校長 篠宮 敏明

昨年度4月に行われた「全国学力・学習状況調査（国語）」で、「手紙の後付け」に関する問題が出されました。便箋に縦書きで書く場合の「日付」「自分の名前」「相手の名前」の位置と順番についてです。ご存知のとおり、縦書きの手紙では、本文の後に日付・自分の名前・相手の名前の順で、日付・相手の名前は上の方に、自分の名前は下に寄せて書きます。

平成24年度にも同様の問題が出され、その時の全国正答率は23.6%にとどまった「手紙を書き慣れていないと解けない問題」です。今回の結果はどうか心配していましたが、後日、文部科学省から送られてきたデータを見ると、全国正答率は41.5%（当校児童46.2%）とポイントは上がっていますが、他の問題に比べ正答率は低くなっています。

大人も含め、手紙を書く習慣や受け取る機会が減っています。一筆箋や葉書、電子メールで用が足りることもあり、私自身も「拝啓」で書き始まる手紙を書くこと、そして受け取ることは年に数回しかありません。

また、私たちが日常的に目にする文書の多くが横書きです。学校から出る文書も、公的機関・企業等から送られてくる文書も、ほとんどが横書きです。横書きの文書では、一行目に日付を右に寄せて、二行目に宛名を左に寄せて、三行目に差出人を右に寄せて書きます。全国の6年生の半分以上の子が混乱するのも無理はありません。

手紙の後付けは、古くからの日本の文化・慣習です。冒頭から相手や自分を出さずに、慎ましく最後にとという日本人の心理や気持ちが表れています。宛名を最後に上から書くこと、署名を下に宛名よりも先に書くことは、相手を敬い大切にするという気持ちを表します。国語の学習内容としてはもちろん、社会科や生活科、総合的な学習等で依頼状、礼状を書く際にも指導してまいりたいと思います。

ここ数年、通信方法に大きな変化が見られます。電子メールはもとより、SNSが主流となっています。スマートフォンやタブレット端末を使って、いつでもどこでも用件や情報、思い・考えを、写真や動画を添えて交流することができます。そして、子どもたちの多くが使っている携帯ゲーム機や携帯音楽プレイヤーでもそれが可能です。それ自体は機動性もありとても便利なツールですが、使い方を誤った場合のいじめ・犯罪等の危険性は様々な報道でご承知のとおりです。

しかしこの危険性は、SNSであろうとメールであろうと、そして手紙であろうと同じです。どんな方法であれ、文章の内容や表現・言葉、そして送信の時間帯やタイミングを誤ると、相手を傷つけてしまいます。

相手を慮ることを念頭に置き、まずはそれぞれの通信方法の特性に応じて形を整える。そして心を込めて適切な文章を作る。送信前にもう一度相手の立場に立って読み返す。面倒なことかもしれませんが、これは情報化社会で生きるために必要な心構えだと思います。